

## 第12回

## 住まいと

## コミュニティ

## づくり

## 活動助成



活動地域：広島県三次市

概要：

ダムの水没予定地の住民に親しまれてきた樹齢約500年の老木があります。当初、行政により移植が検討されましたが、生存確率が低く、多額の費用がかかるため断念されました。水没が迫ると、住民のあいだであらためて移植の思いが湧き上がり、住民の手で移植を行う活動を開始しました。助成対象活動では、移植の下準備としての根回し(周囲をあらかじめ掘って根を一部切り落とし、細根を発達させておく作業)を行ったほか、広く募金活動を行うとともに、老木にちなんだ作品(写真、染色、陶芸など)の制作と展示、ポスターやニュースレターなどによる広報活動などを行いました。移植は2005年7月の予定。今後は、移植予定地の公園(三次市管理)の整備や管理についての協議、移植イベントの準備などを行いながら移植当日を待ちます。

〔えみきの会〕

- ・ 代表者：今井 秀明
- ・ 連絡担当者：今井 秀明
- ・ 連絡先：〒729-4303 広島県三次市三良坂町大字灰塚 14-5
- ・ TEL：0824-44-2237 (活性化センター内事務局)
- ・ FAX：0824-44-3225 ( " )
- ・ E-mail：nozomigaoka@mx35.tiki.ne.jp
- ・ ホームページ：http://ww35.tiki.ne.jp/~nozomigaoka/

## 1 団体の目的と経緯

目的：

住民の心の拠り所であった老木( えみき爺さん )をダムの水没予定地内から住民の居住地への移植すること

経緯：

老木の水没が間近に迫るにつれて、住民の移植に対する意志が強くなり、そのための組織を立ち上げた。

2006年度完成予定の国土交通省灰塚ダムの水没予定地内に、樹齢400年以上と見られる大木(「えみき爺さん」)が残っている。ところは広島県東北部の三次市三良坂町棗原(なつめばら)日本海へ注ぐ江の川の支流上下川の左岸堤防敷きである。

住民になじみの大木であるから、一度は国土交通省の手による移転も検討された。しかし、移転費用に高額を要することと、傷みの激しい大木であるため移植後の生存率が極めて低いと専門家に診断されたことで、国土交通省による移植は断念された。

水没住民の多くは1995年から1996年にかけて移転を完了し、ダム水没地の南側の山を切り開いて造った「のぞみが丘」で暮らしはじめた。移転地の数年間は当然のことではあるが、水没地に残った「爺さん」のことはあまり話題にならなかった。個人の生活再建のことが多く関心事となったからである。

そのうち、平成12年から2001委員会により「えのき新聞」が発行されるなど、なんとか移転ができないかという声が大々しくなった。

2004年9月となり、湛水試験による水没があと2年後に迫り、いよいよ移転か断念かの決断を迫られたとき、地元有志が自費による移転を覚悟の決断し2003年9月26日「えみきの会」を立ち上げた。



活動地域  
広島県三次市

移転費用を集め移転を実現することが当団体の第1の目的ではあるが、これに関心を持ち応えてくれる人とのつながりをつくることができれば、そのつながりは今後の集落経営においても意義があると考えている。地域内での住民相互のつながりと、水没地域住民とダム受益者の人たちとのつながりとの両面における意義である。

分裂することなく組織を維持してきた灰塚ダム建設対策同盟会は、2003年で解散し約40年の歴史を閉じた。住民は、建設容認から集団移転の過程でさまざまな軋轢や葛藤を同盟会主導により乗り越えてはきたが、少子化、高齢化をはじめとする新たな集落存亡の危機に直面することとなった。「えみき爺さん移転」という事業が、まずは地域の住民どうしのこころのつながりと元気を呼び起こすきっかけとなることを願っている。

また、外から「えみき爺さん移転」をおもしろいと思って応援してくれる人たちとの関わりには、別の期待がある。私たちの多くは、「面識のない人」は苦手であるし、それを避けても日常生活は間に合うという田舎の環境で生きている。ましてや、水没住民は好奇の目にさらされている(と自分たちは思っている)そのように閉じがちな住民が、こころを開いて外とのつながり方を試すこと、自分たちの知らない世界や違う考え方を知る過程で、具体的な地域経営施策の企画が新しく生まれることを期待しているのである。都市といなかは「つながることで両方が生きられる関係」だといわれているが、ダム事業はそれそのものはずであるのにこの事態はどうしたことだろう。ダム事業の後「私のいなか」がなくなったのでは、ご先祖さまに申し訳が立たない(?)ではないか。

当団体は、「えのき新聞」を発行していた2001委員会(若年層)と地域の地縁団体「のぞみが丘運営協議会」内の活動グループ(高齢層)の有志により構成されている。



えのき新聞

なお、爺さんの標準和名は「ムクノキ」なのだが、会の創立時に「えみき」の名を正式採用した。

## 2 活動の内容

### (1) 2005年7月後半の移植実施へ向けての2回目の根回し(2004年11月)

- ・ 国土交通省担当者との面談。根回し実施計画提出
- ・ 工事について江の川漁業協同組合を訪問し河川委員会理事と面談了解を得た。
- ・ 11月8日から11月13日に現地で(有)大杉組が根回し施行
- ・ 根回し風景写真撮影(写真家:藤井弘氏)(偶然「オオサンショウウオ」を見つけた。)

### (2) 募金活動(2003年9月からの継続)

- ・ のぞみが丘活性化センター事務所での受け付け
- ・ 郵便貯金口座、郵便振替口座
- ・ のぞみが丘活性化センター常設展示の募金箱(未開封)

### (3) のぞみが丘文化祭での展示

作家への依頼および地元への募集を行い以下を展示

- ・ 写真家 藤井弘先生作品  
「えみき爺さんをつれて行こう」物語
- ・ 染織家 松井美紀先生作品  
「えみきの葉の草木染めの布」
- ・ 陶芸家 西村芳弘先生作品  
「えみきの陶板(えみき公園設置分の一部を三次市より貸借)」
- ・ 山崎貢 2003年度剪定のえみきの枝を使った工芸品(時計、木の食器、花台等)
- ・ 今井よし雄 えみきの枝を使った杖
- ・ 今井純子 えみき染織糸と葛布の壁かけ
- ・ 湯藤末子 同氏所蔵の柿手春三画伯のえみきの油絵と柿手春三画伯と湯藤浩章氏の交流写真
- ・ 伊藤八千代 えみきを題材とした短歌
- ・ 今井秀明 えみき写真 えのき新聞拡大版



根切りの様子

切断はせずに皮をはいで養分が通らなくする作業

- ・ 林千祐 えみき絵葉書、カード、チラシ
- ・ 大杉博樹 えみきポスター

### (4) えのき新聞の発行

5号、6号、7号を発行し、のぞみが丘運営協議会ホームページへPDFファイルにて掲載

### (5) 広報用ポスター掲示

活性化センター内、木村家および三次市役所三良坂支所に掲示

### (6) 企画の広報および募金募集チラシ作成配布

- ・ 地区内配布および三次市役所三良坂支所チラシ置き場にて配布
- ・ 国土交通省江の川工事事務所インフォメーションセンターでダム見学者へ配布

### (7) 地域外の支援者との交流および企画協議

- ・ 現代美術企画製作集団PHスタジオ(代表池田修) 写真家藤井弘、染織家松井美紀、映像作家本田孝義らと、えみき移転企画と広報用作品展示、移転のイベント、移転後の企画協議美術作品工芸作品の出展依頼協議
- ・ 世界中に木を植えて歩くアースウォーカーことポールコールマン氏が種から育てた「えみきの子」を灰塚小学校で植樹し、夜には地元での講演と交流会をした。(当団体は支援)
- ・ 中国地方在住現代美術関係者と交流会(参加者:池田修 細淵太麻紀 伊東敏光 宮原裕美 原田真千子 井関悠 松井美紀、今香 清水直人 藤井弘 本田孝義のほか、当団体会員9名)

## 3 活動の成果

### (1) 根回し

2回目の根回しにより、2005年7月23日の移植へ向けて爺さんのコンディション調整が行われた。今回は川側も掘る予定であったが、樹に傾きがあり倒



根巻きの様子

支えのワイヤーを1本追加した

落のおそれがあるので三方向の根切りとした。支えのワイヤーは3本にした。移転のときには、どの程度の根きりと枝切りをするか、2本の幹のうち枯れている1本を落とすか残すかが課題となる。

生きつくことを最優先にすると形を犠牲にすることになるが、最終は直根の具合を見て現場で決定する。

## (2) 募金活動

募金活動成果はつぎのとおり(3月31日現在)  
募金総額: 1,499,841円(なお、募金箱未開封)  
募金総件数: のべ149名

## (3) 文化祭での展示

のぞみが丘文化祭で展示は、地元に対しては、一昨年の根回しのとおり切り落とした枝を使った作品を募集し、これを中心にする予定であったが、木工作品は期待したほどの応募がなかった。もう少し女性や子供が参加できるものを設定すべきだった。しかし、事務局を中心に今まで出した新聞、ポスター、チラシ、とり溜めた画像を展示用に印刷した写真をまとめて展示する機会となり、それらの総ざらいの意味があった。また、予想外の有名画家が爺さんを描いた絵や、短歌の出展があり地域の人の協力の気持ちがありがたかった。

いままでのつながりで、作家2名の出展があり、見学者の関心呼んだ。

文化祭全体の中での当団体展示は、地域外の人へ知ってもらうことと、全体を賑やかにする役割は果たしたものと評価できるが、これを見て追加の募金意欲を引き出すほどではなかった。

## (4) えのき新聞の発行

えのき新聞を期間中3回発行したが、地元向けとしては「種切れ」と言う状態であったので、募金者名簿の掲載と移転の意義を言うことが主なものとなった。移転は決定し、すべき作業は行われ、住民の八割くらいまで募金をしている状態では、爺さ



文化祭の様子

絵画やえみきの枝を使った作品が展示された

ん移転の意義をあれこれ広報しても「もうわかっている」という反応だったのだと思われる。

## (5) ポスターの掲示

活性化センターには常時広報用ポスターを掲示し、季節に応じて張り替えを行った。

第1作の「はいづかのガンコ爺さん」「爺さんをつれてこよう」以上のインパクトのものではできなかったと評価している。

## (6) 企画の広報および募金募集チラシ作成配布

地域内部向けとしてはポスターと同様の評価である。目新しいものがなく停滞である。外向けには、バスでのダム見学者へ配布をしてもらったが、格別の反応はなかった。ホームページに新聞をPDFファイルで掲載しているが、外部の評価では「全く足りない」と言われている。全くそのとおりであるが、これをつくる技能を持った者が市町村合併の直後市議会議員となって多忙となり、代わりに調達できず1年が過ぎた。

## (7) 地域外の支援者との交流

地域外の支援者との交流は、「灰塚アースワークプロジェクト」をきっかけに知り合ったPHスタジオを仲介者として続いている。のぞみが丘文化祭出展の3名の作家もこれの紹介である。彼らとの会合ではいろいろな企画が議論されたが、ダム完成後に、えみきを含めた「ダム事業とそれに関連するプロジェクトの総括」のイベントを行うという方向がかたまりつつある。

## 4 今後の取り組み

### (1) 移植

爺さん移転そのものは、2005年7月23日と決定した。移植の時期としてはベストではないが、ダムゲートを閉める時期が変更されたので仕方なしの日程の決定である。当初国土交通省は、2005年9月下



総会の様子

旬か10月初旬ころから湛水試験をする予定と伝えていたが、昨年秋に7月下旬か8月初旬ころからにすることを決定したと伝えてきた。移植作業は引き続き(有)大杉組に行ってもらおう。

## (2) 移植イベント

2005年7月23日には、えみき移転イベントを実行委員会方式で行う予定である。企画骨子は次のとおり。

- ・ えみき爺さんを神社下までトレーラーで運搬
- ・ 飾り付け、引綱のとりつけ、みち切り等要員の配置
- ・ 根付き祈願の神事
- ・ えみき公園まで総出の人力で引く(かけ声・沿道のたいまつ)
- ・ 参加者なおらい、出し物
- ・ タイムカプセル

## (3) 移植前後のえみき公園の工事

- ・ 公園管理者三次市との協議
- ・ 移植の苗床の改修工事
- ・ 事前に給水設備を設置(その費用見積もりと費用算段、施工業者打ち合せ)
- ・ 移植後の公園整備、管理についての取り決め

## (4) えみきの会解散

移転が完了したところで、えみきの会は会計報告など残務整理をして解散する。爺さんの行く末は、地域の機関(のぞみが丘運営協議会)へ委ねる。

## (5) えみき移転に関わる出来事の発信

地域存続の課題の解決方向は、外部との交流によるしかないことはわかっているが、うまくできていない現状をみとめなくてはならない。ならば、えみき爺さんのこれまでとその後についての物語発信



昭和28年頃のえみき

は、私たち住民だけではなくむしろ外の若い「表現者」の力を借りて行いたい。

## (6) 爺さんの物語はつづく

移転が完了して爺さんはどうなるのか? 少なくとも3年間はわからないという。私たちは生きつくことを信じている。

えみき公園の説明板のことばより・・・

苗床 - 森の起こり

「木を植えた男」になれば、森とむらのはじまりは荒野に植えられた苗木でした。

のぞみが丘は1993年10月10日に開村しましたが、山を削り土を埋めた土地はまさに荒野でした。いま、水田や畑で農業の営みがあり、神社、小学校、保育所や活性化センターではさまざまな活動が行われ、まちづくりガイドに沿った家並みは落ち着いたたたずまいを見せています。

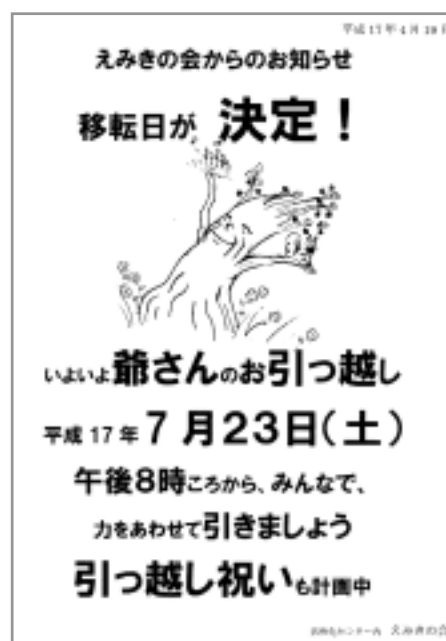
その様子は、あるものすべてが調和した美しいむらのはじまりを感じさせます。

「森の起こり」は、大いなる誇りと意思をもってつくられたこのむらの、未来の姿への祈りから誕生しました。

苗床に移植され育てられた思い出の木々が、やがてのぞみが丘を豊かな木陰で包み込み、その下で人々の笑い声がこだますることを夢見つつ。

2000年3月31日

のぞみが丘住民 三良坂町



移植イベントのお知らせ